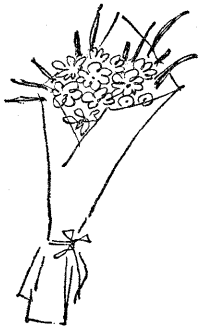
経験

――悲しい経験・その一――

村田修子



四、五、六月と月日が進むのは至極当り前のことで、特に六月の終り頃からは幼稚園のふん囲気も、四月当初の、かっかとした気分から一応落着きがみられるようになって、子どもたちも先生も、楽しむという感じになってきます。

そういうよい時季に、私は一生忘れられない、という経験をしました。

三歳で入園してきたとき、小さくて、色が浅黒いのでよけいにきりりとしまって見えるNちゃん。一人っ子のため少し甘えん坊でいて、そして鼻柱のつよいところもあって、大人の中にいるせいか、私の心の動きを感じる敏感さを持っています。その位ですから、自分も表情が豊かで一口にいえば愛くるしい子どもでした。

当然お母様も同じタイプ。何か失敗ごとがあると、けらけらと快活に〝私がそそっかしいのよ〟と好ましい空気をかもし出せる特技（？）を持ったお母様でした。

楽しそうな日々が二年続きました。

年長組になろうとしていた頃、重大なことを父兄である、或る医師から聞かされました。

医師としては言ってはいけないことですが、と前置きされて、「具合が悪い、といっているあの病気はガンなので、あと一年はもたないのです。お子さんの将来のことがあるので先生にだけお話しします」というのです。

寝耳に水、ということわざのあるのは知っていますが、心臓が、ドキン、と音をたてたように思いました。

それから私の苦しみが始まりました。

子どもの手を引いてにこやかに挨拶をしていく目の前の人に、これから起りかけている大変な不幸。

私の目はどうしてもその親子の姿を憂いのまなざしで見てしまいそうになるのです。その度殊に気を引立てて声を掛ける自分、とても切ない思いです。

或る老齢の高僧が、「死」というものについて人に語り、自身も超越したかに見えていた人が、自分の死期を知らされてからは……というような話を聞いたことがありますが、この類のことは先が分かるということも苦しいことだと思います。

目の前で可愛らしく動いている子どもに毎日毎日接しているのですから、そのことを忘れようと思っても忘れることはできません。胸が痛くなってくる思いで、よく庭の方に向って深呼吸をしました。

切りきずができたなら薬をつけてそれなりの処置もして上げられます。打撲ならひやしてはれをひかせても上げられます。けれどもどうにもして上げられないいら立たしさ、そのあとにくるであろうと思われる悲しみ。そのときほど手の届かない状態に苦慮したことはありません。

日はどんどんたってゆきました。

五月中頃にあった遠足のときも、まだ誰も知らずにその方を交えて喜々と話し合っていらっしゃいましたし、解散後も皆で座り込んでいました。あとで聞くと、つかれてしまって動けなくなってしまったので皆もおつき合いして口の方だけ動かしていた、ということでした。

遠足なども最後なのではないかしら、と思うと、じんと胸にこみ上げてくるものがあります。

その予想通り六月からは母親の代りに友だちの親がつれてきてくれるようになりました。

子どもに様子を聞くといともあっさりと、「ねている

よ」「病院にいるよ」という返事がかえってくることもたまらない気持でした。

子どもは病院にお見舞にいくことを嫌ったそうです。子どもにとって母親はいきいきとしているもの、美しいものなのでしょう。けれど病院にいる母親は自分の思っている母親とは余りに違うので、そういう態度をとらせたのではないかと思います。

私がお見舞にいったとき、「いやだといってきてくれないんですよ」という母親のことばを聞いて、私は何とか一度でもよけいに会わせて上げたいと思って、一緒に行きましょう、とさそってみましたが結局だめでした。本当にやり切れない気持でした。

夏休みに入り、ガンの症状が出たことや、まだ母親のところへ行きたがらないことなどを人づてに聞きながら私は仕事で沖縄に行きました。

すごく寝苦しい夜で、時がたつに従ってクーラーの音がひどく耳について、明日からへやを換えて下さい、と夜中にフロントへ頼みに行った頃、そのお母様はなくなったのでした。

次の朝東京からの知らせでその事を知った私は、その知らせを覚悟してはいたものの動揺しました。

文部省の現職教育の会でしたから、一緒に来ていた学校の男の先生（誰かに何か言いたい気持でした）に言いました。その先生はさりげなく、「そういうことはたびたびありますね。この間もうちの組の父親がなくなって……」と仰しゃいました。

考えてみますと学校位の年齢になるとそういうこともしばしばあるようになるのでしょう。こういう事は私が初めての経験だから、ということではなく、あの小さい人がこれから先いろいろなことに行き当るであろうことを考えると学校の先生のようにさらりとすごせる気分ではありませんでした。

＝つづく＝

（お茶の水女子大学附属幼稚園）